

子規 最晩年の日々つづる

# 日記「仰臥漫録」 原本見つかると

東京・子規庵  
半世紀ぶり  
保存状態は良好

「仰臥漫録」は、子規の最晩年の日記。昭和10年（1935年）12月27日、子規が病中、東京・子規庵で書かれた。この日記は、子規の最晩年の心境や、病中の生活の様子などが、生々しく記されている。また、子規の詩作や書翰も、この日記に記されている。この日記は、子規の最晩年の貴重な資料として、長く大切に保管されてきた。今回、この日記の原本が見つかり、公開された。



「仰臥漫録」の原本

「仰臥漫録」は、子規の最晩年の日記。昭和10年（1935年）12月27日、子規が病中、東京・子規庵で書かれた。この日記は、子規の最晩年の心境や、病中の生活の様子などが、生々しく記されている。また、子規の詩作や書翰も、この日記に記されている。この日記は、子規の最晩年の貴重な資料として、長く大切に保管されてきた。今回、この日記の原本が見つかり、公開された。

「仰臥漫録」は、子規の最晩年の日記。昭和10年（1935年）12月27日、子規が病中、東京・子規庵で書かれた。この日記は、子規の最晩年の心境や、病中の生活の様子などが、生々しく記されている。また、子規の詩作や書翰も、この日記に記されている。この日記は、子規の最晩年の貴重な資料として、長く大切に保管されてきた。今回、この日記の原本が見つかり、公開された。

## 子規の病床日記「仰臥漫録」

### 消失の原本 半世紀ぶり姿



「仰臥漫録」は、子規の最晩年の日記。昭和10年（1935年）12月27日、子規が病中、東京・子規庵で書かれた。この日記は、子規の最晩年の心境や、病中の生活の様子などが、生々しく記されている。また、子規の詩作や書翰も、この日記に記されている。この日記は、子規の最晩年の貴重な資料として、長く大切に保管されてきた。今回、この日記の原本が見つかり、公開された。

- ▲愛媛新聞 平成13年12月27日
- ◀朝日新聞 平成13年12月27日

「仰臥漫録」は、子規の最晩年の日記。昭和10年（1935年）12月27日、子規が病中、東京・子規庵で書かれた。この日記は、子規の最晩年の心境や、病中の生活の様子などが、生々しく記されている。また、子規の詩作や書翰も、この日記に記されている。この日記は、子規の最晩年の貴重な資料として、長く大切に保管されてきた。今回、この日記の原本が見つかり、公開された。